

# これからも臨書と創作をくりかえす人生！

荒金 大琳

これまで五年置きに個展を実施してきました。今年は五十歳の年の個展となります。現在の平均寿命は七・八十歳となり、百歳にも達する勢いですが、人生五十年と言った時代もありました。それから見ると現代の人々はその時代の二人分の人生を歩んでいる事にもなります。その反面、目まぐるしく時間の過ぎ去って行くのを目の当たりにして過ごしてしまいます。その中において、心に残る作品の一つでも多く作りたいという事だけを考えてこの歳まで来ました。安心院町から「東椎屋の滝」の題字の揮毫依頼があった時もそんな事を考えていた時でした。私の五十歳の幕開けにこの題字の揮毫と思いい、平成9年9月7日0時に心を込めて書きました。

「これからも『心に残る仕事』を目標に生きていきたい。」  
「百歳をめざせ、大琳まだ五十歳。まだまだ人生の半ばくたびれるなよ、百歳をめざせ！百歳を！」と自分自身に言い聞かせていました。今回の個展の骨格「古典を50点、創作を50点の展示目標」を決め、創作の大作品を始め古典の半切を安心院の体育館で揮毫したのもこの時でした。

この作品集には、その時の揮毫作品と、昭和四十一年大東文化大学に入学して、一年生から三年生の間、一週間に半紙を2000枚用いて臨書したこと等を思い出しながら、学生時代から現在までの選抜作品も記載しました。

作品の作成中、

- 幼年時指導を受け首藤春草先生を紹介して頂いた松尾翠嶺先生。
- 小学校から中学校・大分県立別府鶴見丘高校の書道の先生として、又、書の方向性を示して下さった首藤春草先生。
- 比田井天来の話を始め、書の指針を導いて下さった宇都宮西邦先生。
- 書学習の上で私のわがままを許して下さい佐々木寒湖先生。

生。

● 首藤春草先生の師で、青春時代に心ときめく書の夢を見せ  
て下さった上田桑鳩先生。

● 書道史を始め色々な授業で書の問題提起をされ、卒業論文  
の指導ではいつもほめて下さり、要点をしつかり押さえて  
ご指導賜った松井如流先生。

の思い出にひたり、

● 有頂天になっている時は厳しく、悩んでいる時は暖かく、  
その都度心に残るお言葉をかけて下さっている生涯の師・  
金子鷗亭先生。

以上の先生方に改めて感謝の念を抱きながら、自分がこれか  
らどう生きたらよいか、新しい自分の作品の模索をも行っ  
ていました。

これからの作品作りでは、これまでの自分の歩みをしっかりと  
見つめた上で、新しい自分を探求しなければならぬでしょ  
う。この作品集をつくりながら初心に帰る事の必要性を今更  
のように学んだ気持ちでありました。十八歳・十九歳の時の  
様な多く書くだけに明け暮れていた時代とは異なり、今は書  
く事以上に考える事にも時間を費やしています。その上に無  
くなって一心不乱に書く事の必要性も理解し始めたところ  
です。五十歳を迎え新しい自分を探し求める為に更に古典に徹  
し、古典100いや1000の学習に対して創作一つの割合  
が私のこれからの書活動となるでしょう。

不器用な私にとって、創作力のない私にとって、この臨書  
と創作の繰り返しはこれからも続く事でしょう。臨書に頼る  
しか私にはないのであります。その上に、師の一言一言と、  
妻節子、そして、自然界の営みから放たれた光が私の支えと  
なることでしょうか。一足飛びでも百歳は百歳。しかし、「百  
歳は一日にしてならず！」大変でも一日一日の積み重ねの苦  
労が多ければ多いほど楽しいと思ひ、筆を持つ幸せに感謝の  
念を持ち、これからも臨書と創作をくりかえす人生に大きな  
夢を抱いて参ります。あたたかいご支援を心からお願い申し  
上げます。